

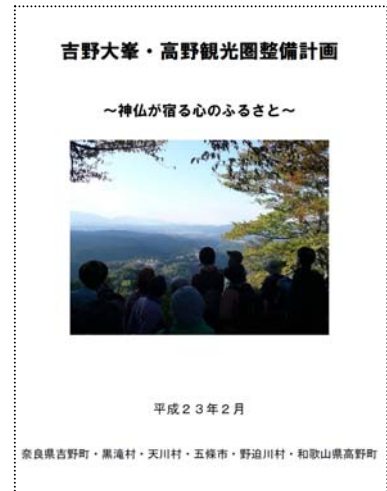
吉野大峯・高野地域の観光交流促進に係る基盤整備調査			
調査主体	国土交通省近畿地方整備局企画部広域計画課		
対象地域	奈良県吉野町・黒滝村・天川村・ 五條市・野迫川村、和歌山県高野町	対象となる 基盤整備分野	交通機関、道路整備等

### 1. 調査の背景と目的

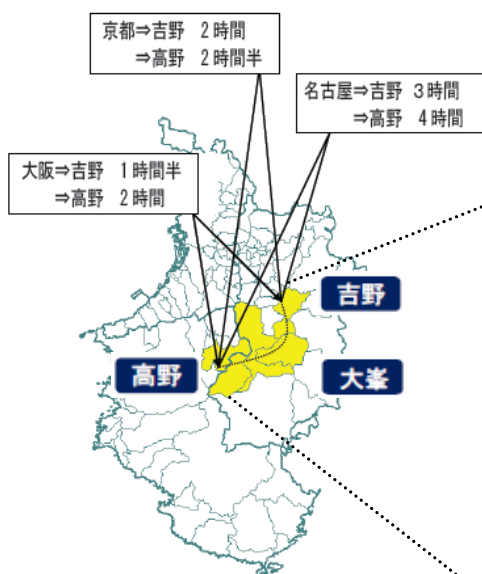
吉野大峯・高野を含む紀伊山地は、日本固有の宗教文化を今日に色濃く残す神仏が宿る聖地として 2004 年 7 月に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界文化遺産登録されたほか、2015 年に控えた高野山開創 1200 年記念大法会に向けて観光の機運が高まっている。これを契機とし、対象地域の 1 市 2 町 3 村は「神仏が宿る心のふるさと」をテーマに 2011 年 3 月に「吉野大峯・高野観光圏整備計画」を策定し、紀伊山地の大自然や各地域を繋ぐ信仰の道に加え食やものづくりなど地域資源を生かした体験を連携させるなど圏域内での周遊性を高め、滞在を促進させ地域全体の活性化に繋げていく事業を推進しているところである。

本業務は、観光圏整備計画における「観光旅客の移動の利便の増進に関する事業（移動交通手段の整備、道路網の整備、案内看板等の充実整備等）」の基礎資料を作成することを目的に、吉野大峯・高野地域の観光動向の現状を把握し、周遊観光の促進に資する道路、公共交通、休憩施設、案内板等の移動利便性増進に関する社会資本等の基盤整備の方針についてとりまとめを行うものである。

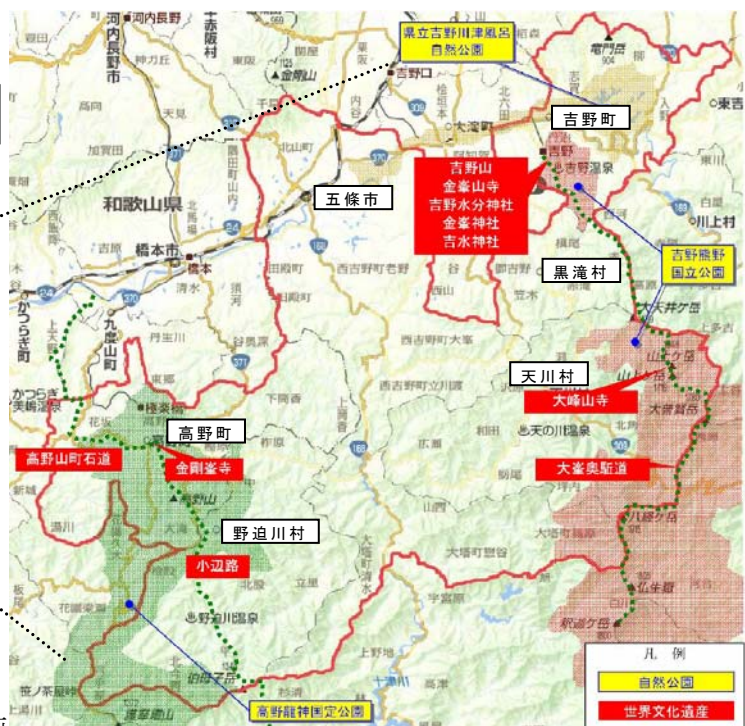
(H23.4 整備計画認定)



#### ■市町村の地理的位置



#### ■自然公園、世界文化遺産の位置図



出典：吉野大峯・高野観光圏整備計画

## 2. 調査の内容・手順

本調査は、①観光動向調査を実施し②基盤整備調査により吉野大峯・高野地域における移動利便性増進に関する社会資本等の基盤整備の方針についてとりまとめを行う。

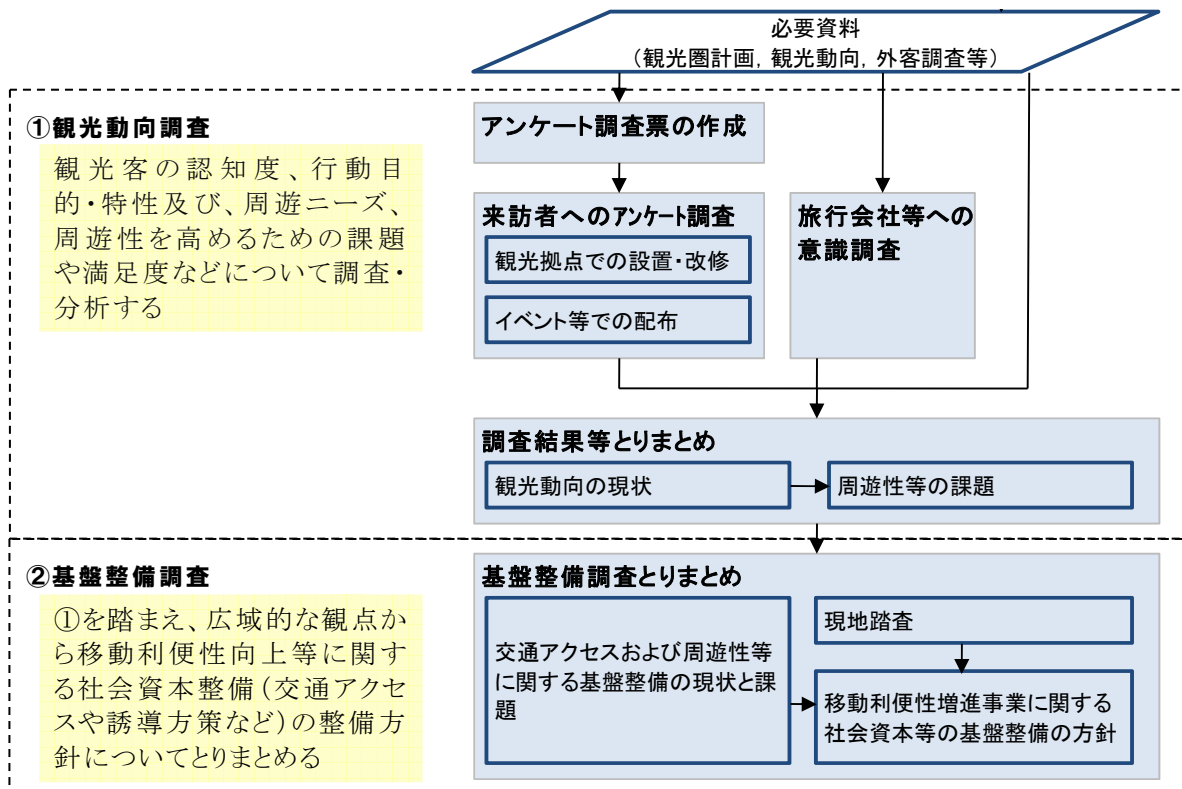


図 調査の流れ

## 3. 観光動向調査について

### 1) アンケート調査

吉野大峯・高野地域への来訪者（訪日外客含む）、非来訪者に対するアンケート調査を実施し、観光動向の現状および周遊性等の課題等についてとりまとめを行う。

#### ■アンケート調査票（非来訪者用アンケート調査票）

(配布状況)



(配布資料)



## ■ 質問内容と把握項目

質問内容	把握項目	来訪者	非来訪者
年齢・性別、職業、住所、日常の運転状況	個人属性	○	○
吉野大峯・高野地域の観光に伴う参考資料	情報収集手段	○	
同行者との関係と人数（総数、高齢者、小学生）	グループ属性	○	
吉野大峯・高野地域への来訪経験	個人属性	○	○
年間の観光頻度（観光地全般）	行動特性		○
吉野大峯・高野地域の訪問先と交通手段	行動特性	○	
交通手段に対する不満点	移動・周遊性	○	
吉野大峯・高野地域の観光のきっかけ	情報収集手段	○	
吉野大峯・高野地域の認知度と観光の魅力	認知度、潜在性	○	○
吉野大峯・高野地域のイメージと観光の意向	潜在性	○	○
吉野大峯・高野地域のイメージ（思い浮かぶ言葉）	認知度	○	
吉野大峯・高野地域の観光の満足度と改善点	満足度	○	
吉野大峯・高野地域への再来訪意向	満足度	○	○

## ■ アンケート調査の実施と回収状況

### 【来訪者アンケート】

吉野山地区、天川洞川・中央地区、五條新町地区、高野山地区等の観光案内所や宿泊地等の観光拠点においてアンケート調査票を設置、イベント等の開催時にアンケート調査票を配布

市町村名	配布部数	有効回答数	回収率
五條市	200	14	7.0%
黒滝村	100	10	10.0%
天川村	100	15	15.0%
野迫川村	200	27	13.5%
高野町	500	56	11.2%
吉野町	500	189	37.8%
合計	1,600	311	19.4%

### 【非来訪者アンケート】

吉野大峯・高野地域への観光の玄関口となる京都（近鉄「京都駅」）、大阪（南海「難波駅」）やシンポジウムなどでアンケート調査票を配布

市町村名	配布部数	有効回答数	回収率
京都駅	487	116	23.2%
難波駅	500	139	27.8%
シンポジウムフォーラム	300	104	34.7%
WEB	-	23	-
合計	1,300	359	27.6%

### 【訪日外客アンケート】

訪日外客の多い高野山（南海「高野山駅」）においてアンケート調査（聞き取り）を実施

外国語版	有効回答数
英語版	9
フランス語版	1
合計	10

## 2) ヒアリング調査

吉野大峯・高野地域との関連性が高い旅行会社・交通事業者等にヒアリング調査を実施し、観光動向の現状およびニーズや周遊性の課題等についてとりまとめを行う。

### ■ ヒアリング項目

対象企業	ヒアリング内容
旅行会社	<p>1 最近の観光産業全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人気の旅行タイプと最近の旅行の傾向</li> </ul> <p>2 吉野大峯・高野地域の観光について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人気の観光スポット（観光資源、イベント、グルメなど）、宿泊・季節等の観光形態及び最近の旅行の傾向</li> <li>・旅行商品としての周遊観光ルートの設定と周遊に伴う課題提起。特に交通環境（道路、鉄道、バスなど）の問題や改善点</li> </ul>



交通事業者	<p><b>1 吉野大峯・高野地域へのアクセス交通について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道、バス等の観光利用状況（利用者属性や季節変動など）</li> <li>・アクセス交通に対する利用者から要望</li> </ul> <p><b>2 吉野大峯・高野地域へのアクセス整備について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存路線の増便や新規路線の開通に伴う課題や改善点（新規バス路線に伴う道路整備箇所など）</li> </ul>
-------	---

## ■ヒアリング調査の実施

### 【旅行会社】

(株)日本旅行京都四条支店、トップツアー(株)京都支店、(株)京阪津ツーリスト京都支店の3社に対してヒアリング調査を実施

### 【交通事業者】

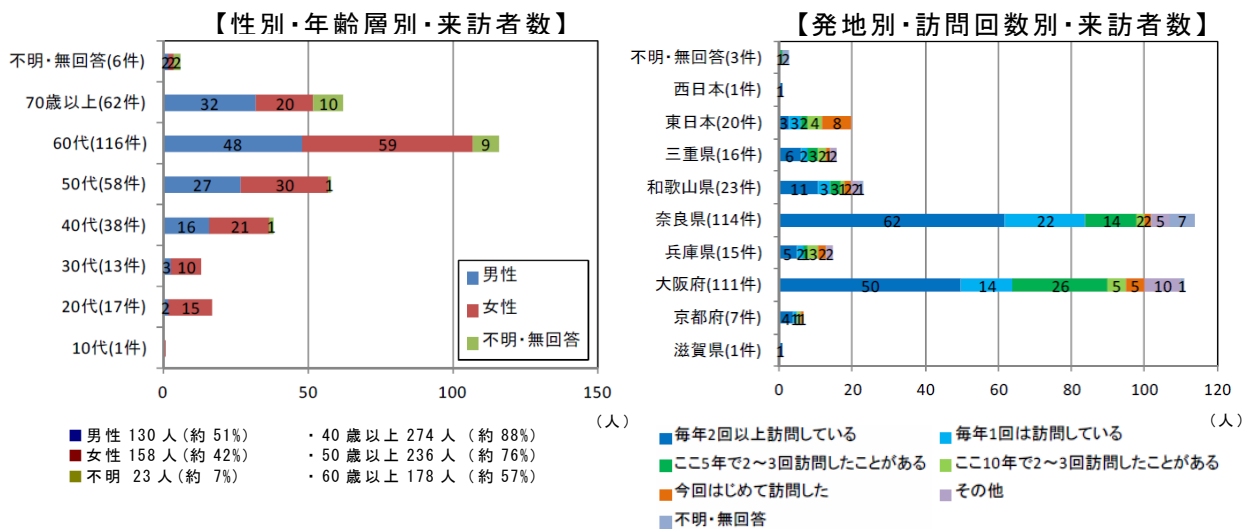
近鉄日本鉄道(株)、南海電気鉄道(株)、南海りんかんバス(株)、奈良交通(株)の4社に対してヒアリング調査を実施

## 3) アンケート調査結果の概要

### (1) 来訪者アンケート

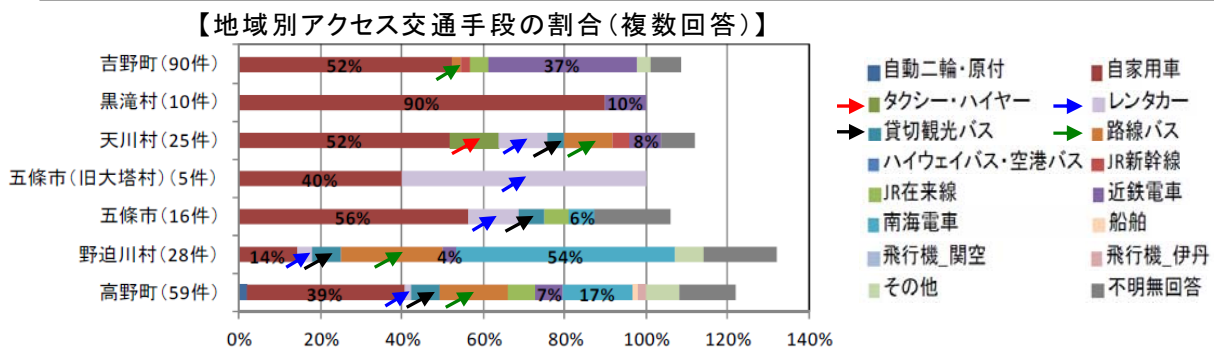
#### ■来訪者の属性 (N=311)

- ・ 50歳代以上(高齢)の来訪者が7割以上、20~30歳代を含め女性来訪者の割合も高い
- ・ 大阪、奈良を中心に近畿圏からの複数回(リピーター)の来訪者が多い



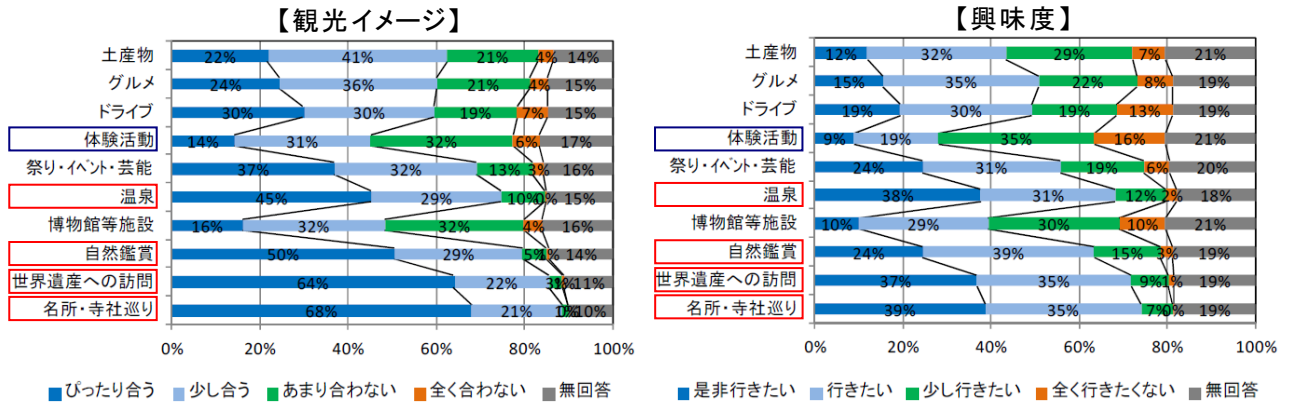
#### ■アクセス交通手段

- ・ 全般的に自家用車の割合が高いが、吉野(近鉄)・高野(南海)では鉄道の割合も高い
- ・ 路線バス、タクシー・ハイヤー、レンタカーの利用も見られる



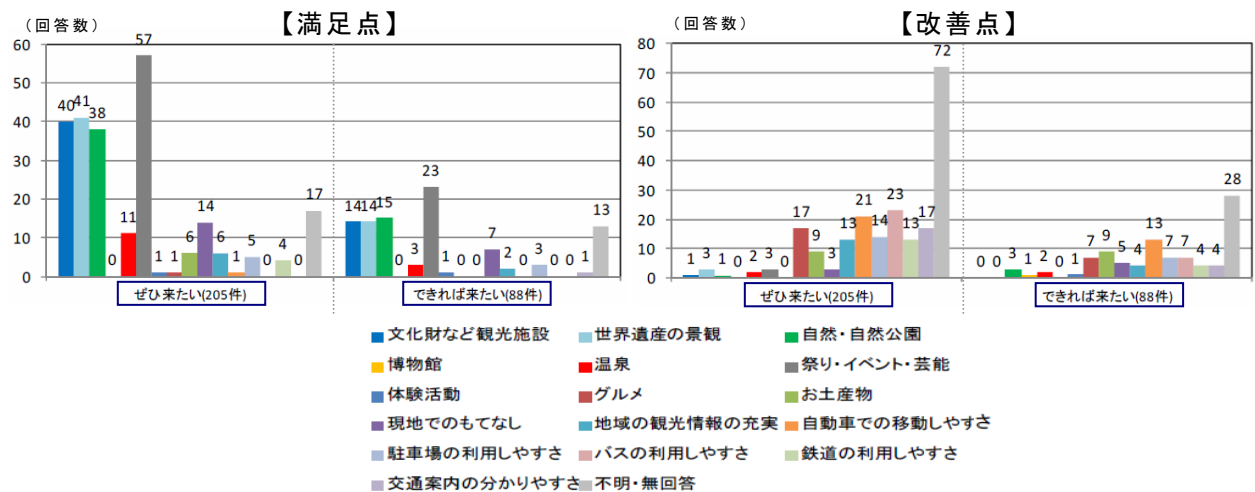
## ■地域の観光イメージとその観光に対する興味

- “温泉、自然観賞、世界遺産の訪問、名所・寺社巡り”の割合がイメージ、興味度ともに高く、“体験活動”はイメージ・興味度ともに低くなっている



## ■再来訪意向“ぜひ行きたい、出来れば行きたい”の満足点と改善点

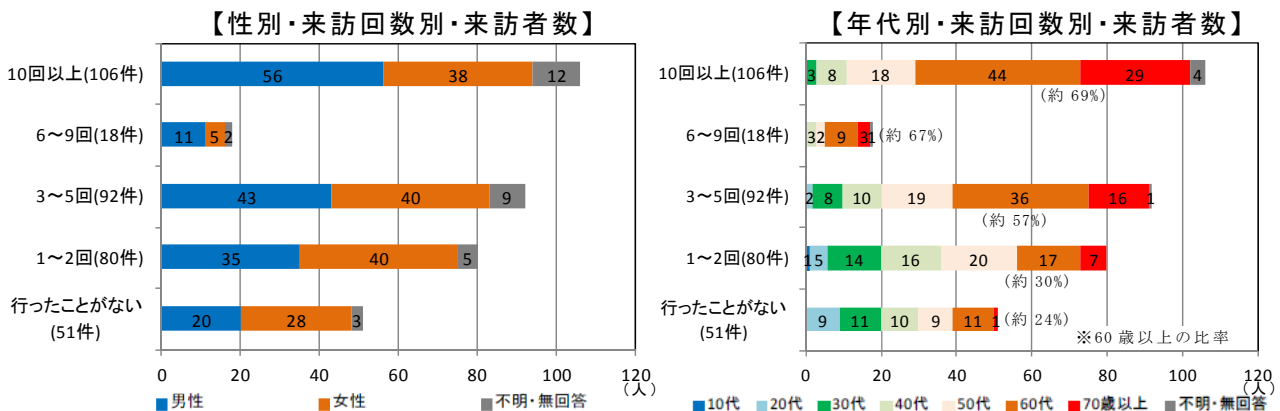
- 満足点**：祭り・イベントが57ポイントと高く、世界遺産、文化財、自然なども高い  
“おもてなし”が14ポイント、温泉が11ポイントとなっている
- 改善点**：無回答が多いが、“バスの利用・自動車の移動しやすさ”がそれぞれ23、21ポイントと高く、“グルメ”が17ポイントとなっている。



## (2) 非来訪者アンケート

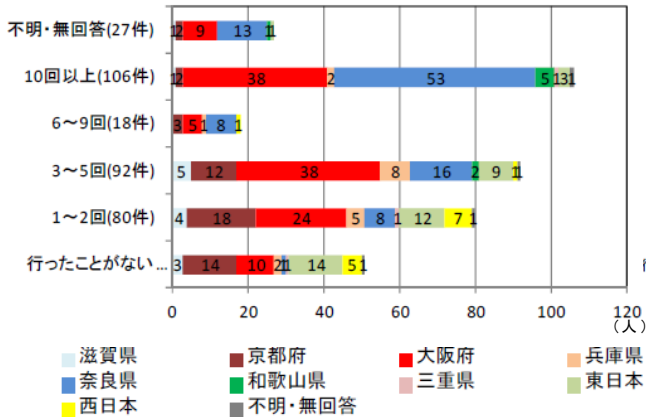
### ■来訪経験者の属性 (N=347)

- 10回以上の来訪者(リピーター)が多く、男女の割合はほぼ同等程度となっている
- 60歳以上のリピーターが多く、来訪回数が多くなるとその比率が高くなっている

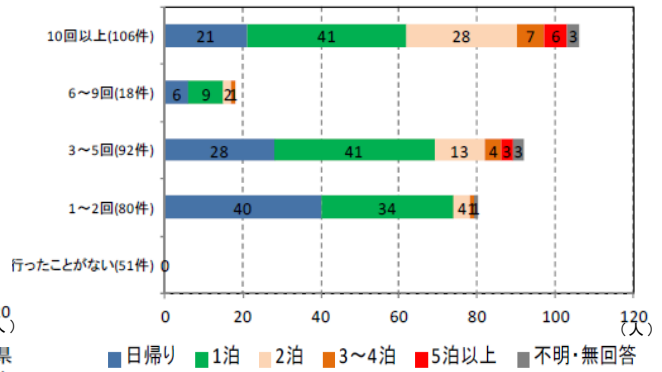


- ・ 来訪回数が多くなるほど大阪・奈良の割合が高く、5回以下では京都の割合も高い
- ・ 来訪回数が多くなれば2泊以上の宿泊回数も多くなる傾向がある

【居住地別・来訪回数別・来訪者数】



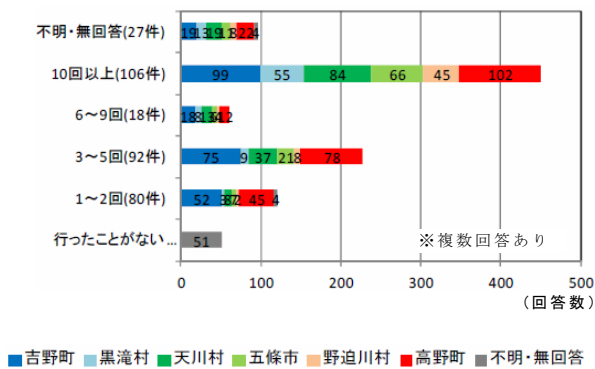
【宿泊数別・来訪回数別・来訪者数】



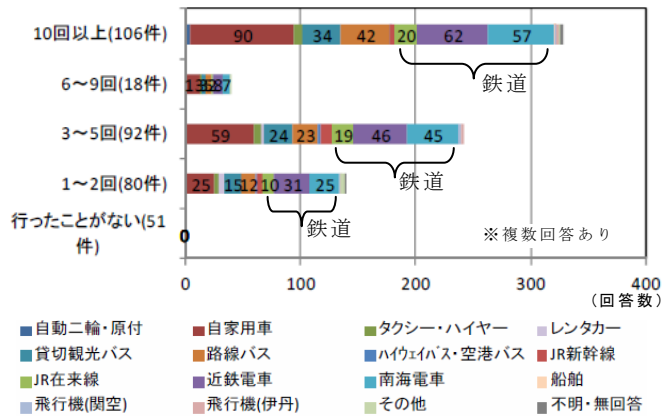
■ 来訪者経験者の来訪場所とアクセス交通手段

- ・ 吉野、高野の来訪が多いが、来訪回数が多くなるほど他地域の割合も高くなっている
- ・ 自家用車、鉄道の利用割合が高く、来訪者回数による特徴はあまり見られないが、バス（観光、路線）も利用されている

【来訪回数別・来訪場所数】



【来訪回数別・アクセス交通手段】

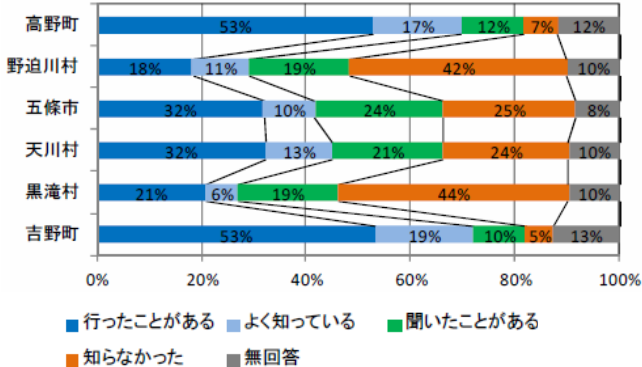


■ 来訪者経験別の地域の認知度と興味度

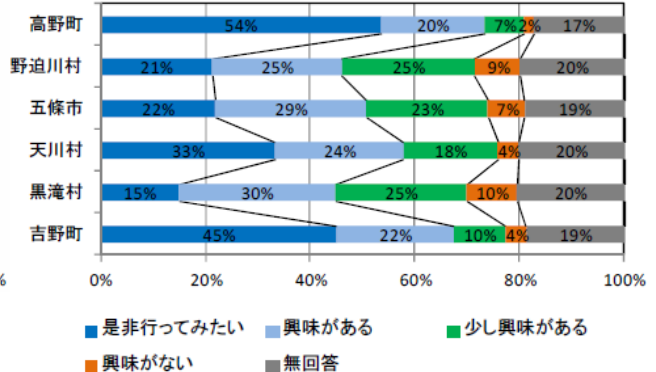
(来訪経験 “あり”)

- ・ 来訪経験者でも地域全体で見ると野迫川、黒滝の認知度は低い傾向が見られる
- ・ 興味度は認知度ほどの地域差はなく、“少し興味がある”まで含めると各地域ともに同等程度となっている

【認知度】

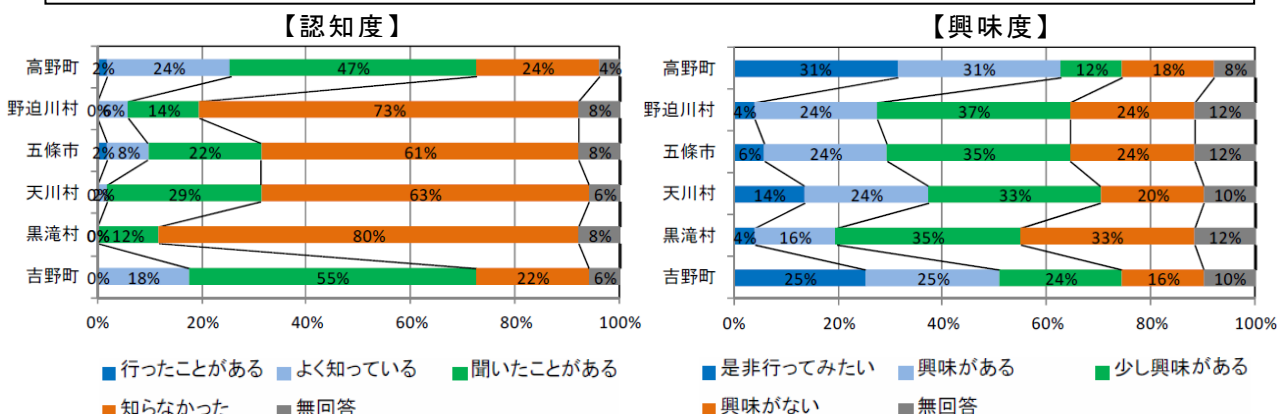


【興味度】



(来訪経験 “なし”)

・認知度は“聞いたことがある”まで含めると吉野、高野は約7割、他の地域は約3割以下であるが、興味度は認知度より高く、その差(ギャップ)は天川、野迫川が高い



4) ヒアリング調査結果の概要

(1) 旅行会社

項目	主な意見
観光全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の観光旅行が増加している</li> <li>・旅行に関する情報取得の形態は、WEB検索など多様化している</li> <li>・旅行単価は減少傾向で、近場の旅行が増加している</li> </ul>
吉野大峯・高野地域について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高野町を除くと全体的にアピール(広報)不足</li> <li>・ターゲット(客層)を絞らなければツアー等の企画は難しい</li> <li>・高野山はミシュランガイド(三つ星を取得)にも掲載されて訪日外客に人気が高く、外国語のWEBサイトも充実している</li> <li>・観光コンテンツが不足しており、世界遺産の景観を活かしたハイキングやウォーキング、地域性を活かした農業体験や民泊などは可能性のあるコンテンツである</li> <li>・グルメの売りが少ない</li> </ul>
アクセス交通について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型観光バスの運行が出来なければツアーが組みにくく、現実に地域までの道路及び地域内道路は脆弱である</li> <li>・特に女性の客層に対して、道路整備は重要な事項である</li> <li>・レンタカーがあると利便性は向上する</li> </ul>

(2) 交通事業者

項目	主な意見
アクセス交通等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉野方面については、南阪奈道路等の道路整備と共に鉄道・路線バスの利用は減少傾向</li> <li>・高野山方面への鉄道利用は訪日外客を含め増加傾向、観光バスの来訪者も多い</li> <li>・新幹線とのアクセスを考慮した温泉・散策等の商品を販売している</li> <li>・周遊観光は、観光地間の距離(道中)が長いと利用されにくい</li> <li>・ストーリー性のある周遊ルート、拠点整備が必要</li> <li>・鉄道と連携したバス路線整備の要望はあるが、観光に係る路線バスには補助制度がなく、経営が難しい</li> <li>・“すずかけライン”の道路整備が進み、一定の援助があれば路線バス運行の可能性が高まる</li> <li>・レンタカーの運行に関しては双方向の利用がなければ経営は難しい</li> <li>・東西方向の道路・アクセス交通が脆弱</li> <li>・世界遺産に対する環境保全に配慮するとパーク&amp;バスライドのモデル地区のような取り組みも考えられる</li> </ul>

#### 4. 基盤整備調査について

##### 1) 「吉野大峯・高野地域」へのアクセス交通の現況

###### (1) 圏域へのアクセス交通

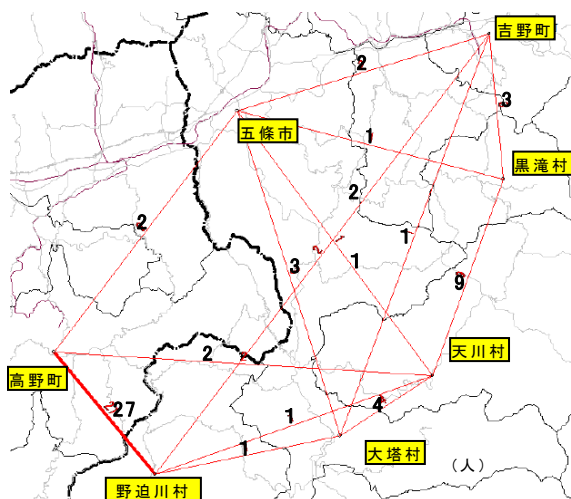
アンケート調査結果から見て、全般的に自家用車の割合が高いが、吉野町、高野町では鉄道の利用割合も高く、また、奥地域の黒滝、天川、五條（大塔）ではタクシー、レンタカー、路線バスの利用も見られる。（P 4 「地域別アクセス交通手段の割合」参照）

###### (2) 圏域の内々交通（内々交通利用者 N=64）

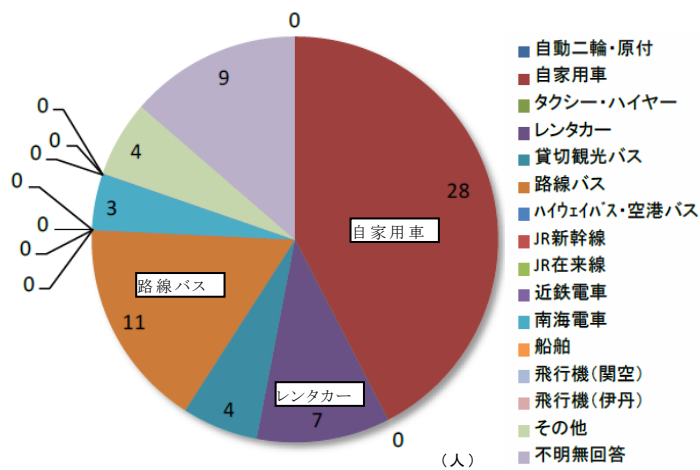
冬季調査（2～3月）が影響しているところもあるが、内々交通（周遊）はあまり見られない。「高野－野迫川」はモニターツアー客の回答により比較的多くなっている。

内々交通の手段は自家用車の割合が高く、レンタカーや路線バスの利用も見受けられる。

【内々交通量】



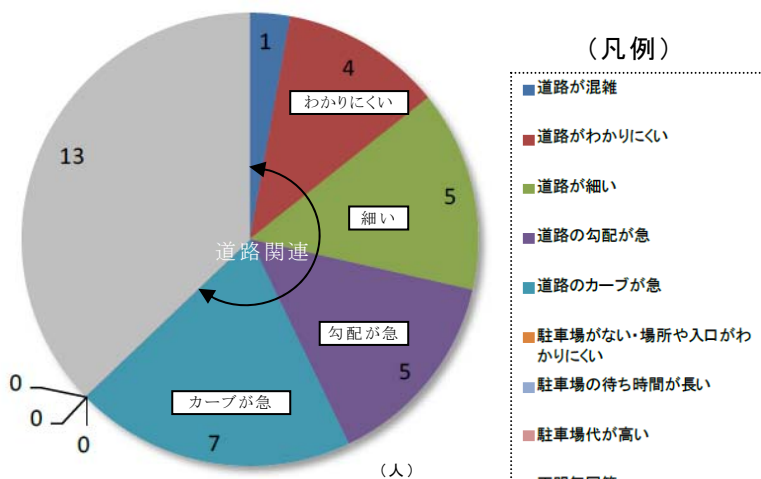
【内々交通手段】



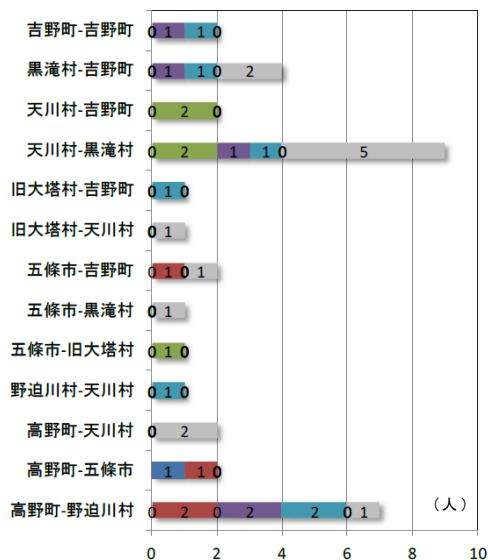
###### (3) 内々交通利用者（自家用車、レンタカー）の不満点（回答者数 N=35）

サンプル数は少ないが、全般的に“道路が細い・勾配が急”などの“道路状況の悪さ”が指摘されており、また、ほぼ全ての地域間で“道路状況の悪さ”指摘されている。

【道路利用の不満点(全般)】



【地域間別の不満点】

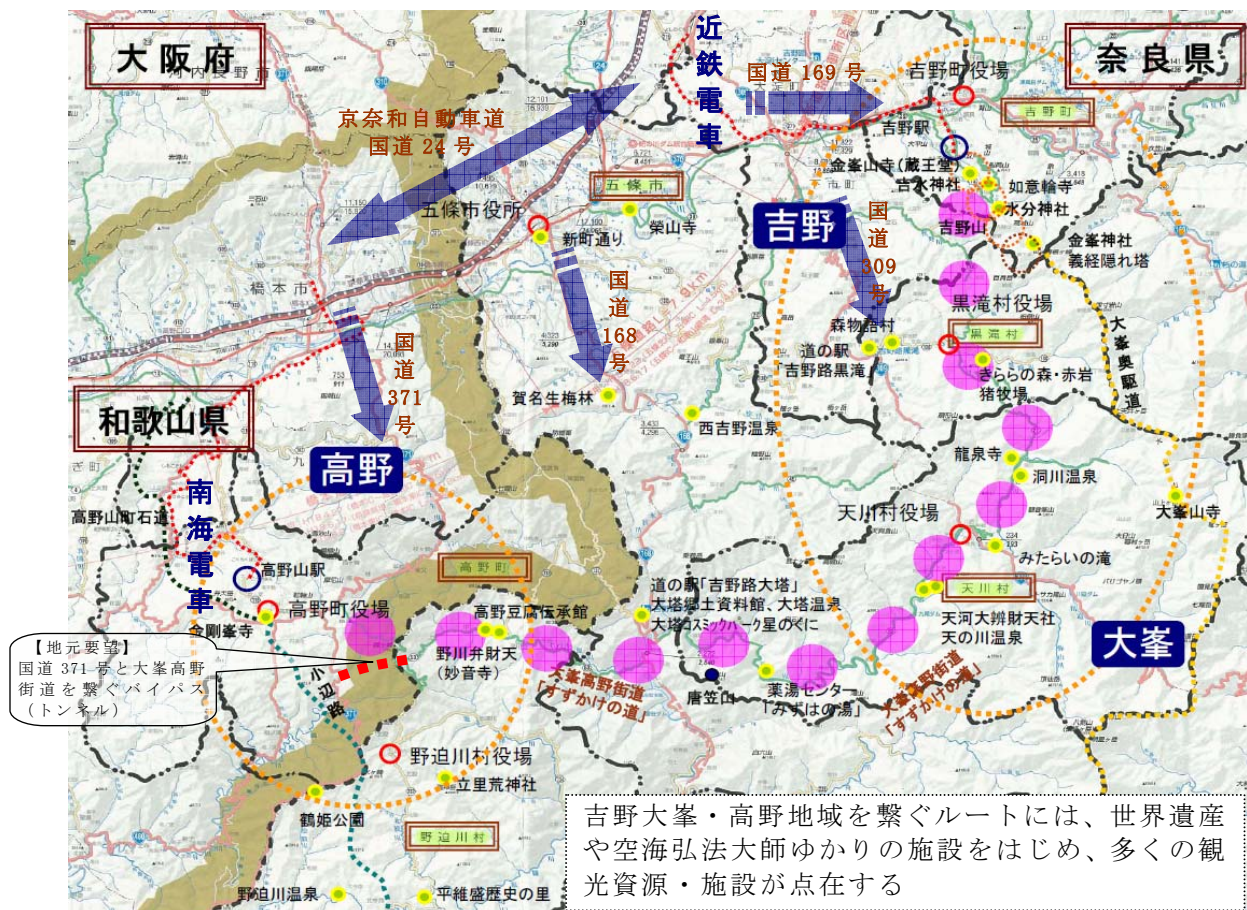




## 2) 基盤施設等に関する主な意見（非来訪者アンケートより）

項目	基盤施設に関する主な意見
アクセス 交通等	<ul style="list-style-type: none"> <li>もう少し<u>道路を広く</u>してほしい</li> <li>バスなど<u>地域を結ぶ公共交通機関がない</u></li> <li>道路の状況があまり良くないので、特に観光シーズンは避けたい</li> <li>吉野から高野に繋がる交通機関が不便</li> <li>京都からの交通のルートがわかりにくい</li> <li>気軽に行ける地域ではなく、観光バスなどの交通手段しか行けない</li> <li><u>標識など分かりやすく多数設置</u>して欲しい</li> <li><u>バス旅行の観光案内</u>をしてほしい</li> <li>バスガイド付きの日帰り観光バスがあればよい</li> <li>高野山の路線バスの増便と延長</li> </ul>
観光施設 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる施設において<u>高級感、清潔感</u>が必要</li> <li><u>ドライブインを充実</u>させてほしい</li> <li>温泉地紹介が少ないのでは？<u>宿泊案内を詳しく</u>知りたい</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>良いところがたくさんある、積極的に<u>PR</u>してほしい</li> <li><u>おいしい料理店が少ない</u>のでは？</li> <li><u>地元郷土食の掘り起こし</u>と公開</li> <li>季節に対応したフリー周遊切符による巡り観光がしたい</li> <li>郷土グルメや体験スポットを紹介し、<u>デートで行きたくなるイメージ</u>にして欲しい</li> <li>「<u>空海の吉野～高野の道</u>」を峰筋で実現して欲しい</li> <li>排気ガス、ゴミなど利便性はあまり追求しないでほしい、<u>時代にあった観光地づくり</u>を期待している</li> <li><u>自然を残す方法</u>を考えて欲しい</li> </ul>

## 3) アクセス道路、観光施設等の位置図



#### 4) アクセス道路の状況 (現地踏査結果)

##### (1) 道路幅員等の現況

南北道路の国道 168、309、371 号は 2 車線区間も多く、道路改良が進んでいる。一方、吉野大峯・高野地域を繋ぐ東西道路の県道高野天川線 (大峯高野街道: すずかけの道)、洞川下市線などは一部改良により 2 車線区間もあるが、大半が 5.5m 未満のすれ違いが困難な道路である。



##### (2) 東西道路の走りやすさ

東西道路は C ランク以上が大半で、“D ランク”の割合もかなり高くなっている。

(A ランク)

(B ランク)

(C ランク)

(D ランク)



① 2車線以上の道路で、カーブ・勾配が緩やか。  
② 歩道もしくは広い路肩がある。



① 2車線以上の道路で、緩やかでないカーブ・勾配が多少ある。  
② 路肩が狭いところがある。

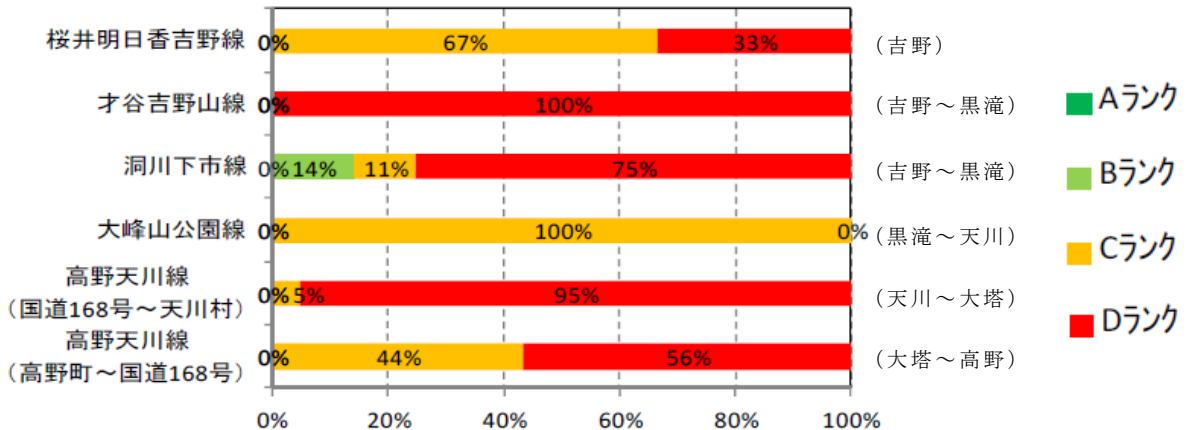


① 離合できる道路で、急カーブ・急勾配がある。  
② 路肩が狭いところがある。



① 1車線の道路で急カーブが連続。  
② 路肩が狭い。

【東西道路 走りやすさランクの構成割合】



※出典: 走りやすさマップ (国土交通省資料)、現地調査結果



### (3) 観光案内標識の状況

自動車利用者に対して、国道 309 号などの主要な南北のアクセス道路では地域への方向を示す案内標識や“世界遺産”の案内標識が見られるが、また、地域内では観光資源・施設に対する案内標識はほとんどに見られない状況である。



## 5) 基盤整備の方向性

### (1) 課題と対応方針

分野	内容	課題	対策方針
観光 (ソフト)	行動	観光客数の増加	・認知度向上のための広報（WEBサイト、パンフレット） ・観光資源を活かした観光コンテンツの開発
		周遊観光	・周遊性向上のための広報、観光圏ブランドの確立 ・ストーリー性のある着地型商品の開発
	客層	新たな客層の確保 リピーターの確保	・客層(ターゲット)を絞った着地型商品の開発 ・体験活動、郷土料理、おもてなし等の見直し
		外客の確保	・WEBサイトの整備（高野山との連携）
交通 (ハード)	道路	脆弱な道路 (狭い・細い・急カーブ)	・ローカルルールや優先度を踏まえた道路整備
	公共交通	移動手段の確保 (周遊観光)	・バス路線、地元交通機関と連携したデマンドバス(タクシー)、レンタカーの検討
	その他 基盤施設	案内標識の整備	・観光施設のブランド化と連携した案内標識の整備
		休憩施設の整備	・トイレ等休憩施設の適切な配置

### (2) 対応方針の検討

#### 【観光（ソフト）関係】

##### ■WEBサイト、パンフレット

吉野大峯・高野観光圏協議会において、空海・弘法大師ゆかりの施設など観光資源の掘り起こしやWEBサイトの開設、パンフレット等の作成に着手されており、平成24年度には公開するように聞いている。

外客の確保を含め、一般的な認知度が高い観光地の“高野山、吉野山”を中心に、各地域が連携しながら周遊観光を広報していくことが重要である。

##### ■観光圏ブランドの確立

吉野大峯・高野地域には、世界遺産を始め歴史的及び自然環境を生かした様々な観光資源が点在している。また、天川村ふれあい直売所（小路の駅「てん」）では「地元の特産物を生かし、100%天川村で作られたもの」を販売しているように、各地域で地域特性を生かした様々な取り組みが行われている。

これらの様々な観光資源や郷土グルメ、また体験活動や“おもてなし”などを観光圏（協議会）としてブランド化し、広報活動していくことが重要と思われる。

##### ・観光コンテンツ・着地型観光商品の開発など

旅行会社のヒアリングにあるように、「世界遺産の景観を活かしたハイキングやウォー

キング、地域性を活かした農業体験や民泊などは可能性のある観光コンテンツ」である。

当地域はリピーターが多く、リピーターを更に確保するためには、「郷土料理の開発やおもてなし等の見直し」なども重要と思われる。

また、アンケートの主な意見では「郷土グルメや体験スポットを紹介し、デートで行きたくなるイメージにして欲しい」などもあり、客層（例えばカップル）を絞ったストーリー性のある着地型の観光商品の開発及び広報活動が必要と思われる。

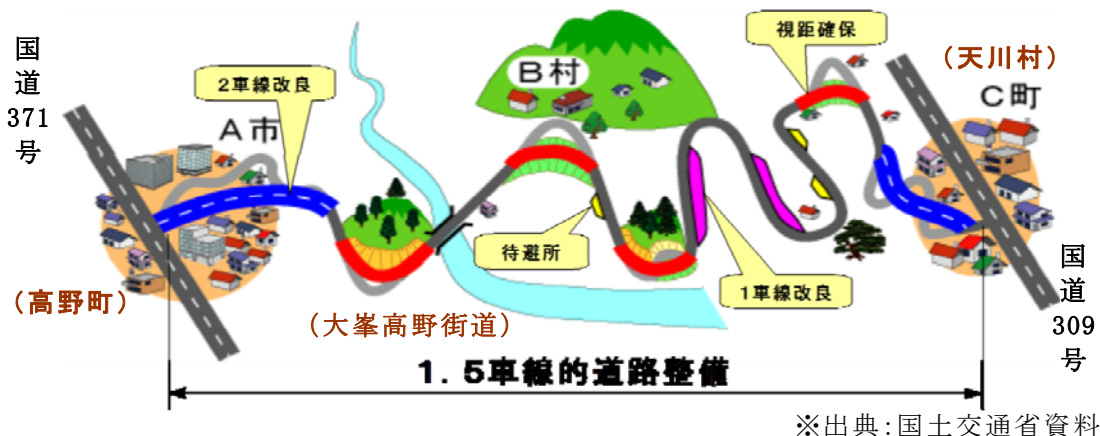
いずれにしろ、地域が連携して観光圏協議会全体として取り組むことが重要である。

## 【交通（ハード）関係】

### ■道路整備

吉野大峯・高野地域への主要アクセス道路の南北道路（国道168、309、371号）は2車線区間も多く道路改良が進められているが、地域を横断的に繋ぐ東西道路は（県道高野天川線、洞川下市線など）は大半が5.5m未満のすれ違いが困難な道路（走りやすさDランクの割合が高い）である。

大型観光バスによる周遊観光には東西道路の円滑な交通（2車線化）が課題となるが、整備にあたっては多額の予算と時間が必要となり、当面の整備としては、すれ違いが困難な隘路区間などを優先的に、1.5車線の道路整備（待避所設置、視距確保、1車線改良、2車線改良の組み合わせ）が好ましいと思われる。



### ■バス路線の検討

アンケートの主な意見を見ると、周遊観光の手段としてバスなど地域を結ぶ公共交通機関の整備を望む声も多くある。

現在、吉野町、高野町、天川村へは鉄道や路線バスの公共交通機関があるが、これらの地域を繋ぐ交通機関は整備されていない。理由は“需要が少ない、道路事情の悪い”などが挙げられる。

以前は、高野山駅前と天川村の洞川温泉を繋ぐ路線バス「すずかけライン」が南海りんかんバスと奈良交通の連携により夏季限定で運行されていたが、平成17年に廃止されている。



※出典：吉野大峯・高野観光圏整備計画書



実現に向けての検討項目は以下のとおりである。

運営形態	行政機関等による運営、バス・タクシー会社への委託などが考えられる 料金収入だけでは運営が困難と思われ、補助制度や観光業者の負担金などを活用した運行形態を検討する必要がある
車両	道路の整備状況や需要を踏まえると、小型バス～ライトバンが適切である
運行本数	高野・天川を2台が往復する形が適切だが、車両サイズや需要（閑散期、ピーク時）、既設路線との接続などを考慮する必要がある
料金	観光商品のオプションとして適切な料金設定が必要であり、採算の確保が難しいことも考えられる

### ■デマンドバス（タクシー）、レンタカーの検討

吉野、高野、天川へは鉄道や路線バスがあり、これらの利用者を対象としたデマンドバス（タクシー）やレンタカーは有効かつ効率的な周遊手段である。

実現に向けての検討項目は以下のとおりである。

#### ・デマンドバス（タクシー）

運営形態	観光商品のオプションや観光シーズン時期に設定し、観光の規模に応じてバス、タクシーの使い分けが考えられる。「必要なときにだけ」の運行となり、不要な人件費等は削減可能
路線・時刻	あらかじめ周遊施設やルート、発着時刻等を設定する必要がある
予約方法	事前の予約制（前日の昼間までに予約）となるが、大規模なシステムでなく、協議会やプラットホームでの電話受付などが適切である
料金	観光商品のオプションとして適切な料金設定が必要であり、採算の確保が難しいことも考えられる

#### ・レンタカー

運営形態	観光商品のオプションとして設定又は観光シーズン時期に営業所を開設
料金等	観光商品のオプションとして適切な料金設定が必要である 貸し出し・返却場所などの設置により、採算の確保が難しいことも考えられる

### ■案内標識、休憩施設等の整備

吉野大峯・高野観光圏として必要な観光施設をブランド化（登録）し、下記の世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」のロゴマークも踏まえながら統一した案内標識等により地域の一体性を印象づける必要がある。

また、一部の施設では、施設を利用しないとトイレ休憩が出来ないところもあり、周遊ルート（商品）の案内と併せて適切な休憩施設の設置と案内が必要であると思われる。

▲タイプ（最小使用サイズは25mm）



※出典：世界遺産登録推進三県協議会資料

## 5. まとめ

大型観光バスによる周遊観光を実現するためには大規模な道路改良が必要であり、多額の費用と時間を要すると思われる。

アンケートの主な意見を見ると「排気ガス、ゴミなど利便性はあまり追求しないほしい」「時代にあった観光地づくりを期待している」や「自然を残す方法を考えて欲しい」などの意見もある。

周遊観光の検討にあたっては、吉野大峯高野街道などの東西道路における1.5車線の整備など必要最低限の道路整備と周遊手段の確保（路線バス、デマンドバス（タクシー）、レンタカー等）及び観光案内看板等の設置による地域の一体性を踏まえることが重要と思われる。

いずれにしろ、周遊観光を実現するためには、1つの手段として社会資本整備総合交付金の基幹事業（道路整備）や効果促進事業（周遊手段、案内標記、商品開発など）などの補助制度を活用しながら、「吉野大峯・高野観光圏協議会」全体が一体となって、各事業に取り組むことが重要である。